

夏季休業期間に関するアンケート調査結果について

1 調査目的

近年、7月下旬は過酷な暑さ、猛暑日が続くようになり、登下校時の熱中症対策が急務となる中、児童生徒の健康を守ることを最優先に考え、令和8年度以降の夏季休業期間変更の検討を進める際の資料とするため、本調査を実施する。

2 調査概要

(1) 調査期間

令和7年10月7日（火）から10月20日（月）まで

(2) 調査対象

加古川市立学校に在籍する児童生徒及び保護者

(3) 調査方法

児童生徒は1人1台端末を使用し、Google フォームにて回答

保護者はGoogle フォームにて回答（一部、紙で回答）

(4) 回答結果

	調査対象者（名）	回答者数（名）	割合（%）
児童（小・義務教育学校）※1	12,301	10,590	86.1
生徒（中・義務教育学校）※1	6,757	5,158	76.3
保護者※2	16,233	7,833	48.3
保護者（再回答）※3		158	

※1 調査対象者数は、令和7年5月1日現在の在籍児童生徒数

※2 調査対象者数は、電子連絡ツール「スクリレ」の登録者数と紙での回答者数を含む。ただし、「スクリレ」は、児童生徒1名に対し最大3名まで登録でき、各家庭で複数回答された場合もある。しかし、各家庭で複数登録している場合でも、1名が1回、回答された場合もある。

※3 10月16日以降、意見等を変更される場合に再回答いただいた回答者数

3 アンケート結果

(1) 調査対象者の回答割合

① 小学校・義務教育学校（前期課程）の児童（回答者数：10,590名）

■小学1年 ■小学2年 ■小学3年 ■小学4年 ■小学5年 ■小学6年

18.0% 14.9% 15.6% 16.4% 17.6% 17.4%

② 中学校・義務教育学校（後期課程）の生徒（回答者数：5, 158名）



③ 保護者（回答者数：7, 833名）

※再回答いただいた方、紙で回答いただいた方も含む

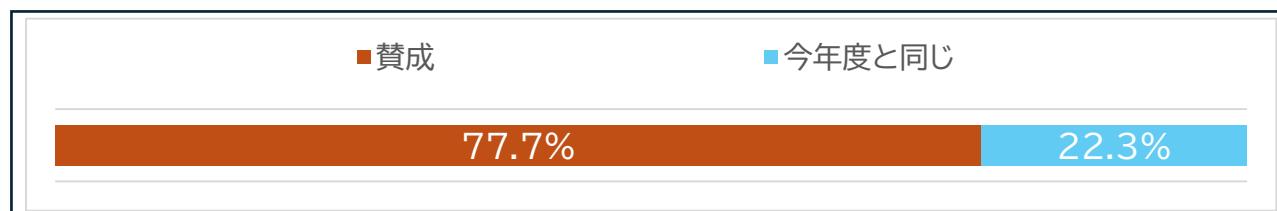
・お子さんの在籍学年について

※複数名在籍している場合の複数回答（10, 644名）を含む

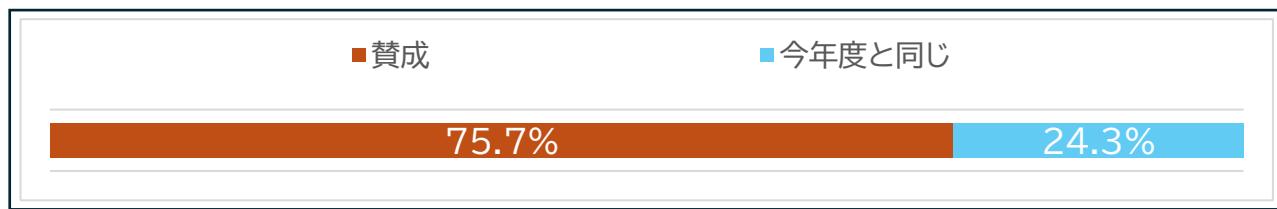


（2）夏季休業期間の現在の「7月25日から8月31日まで」から延長（長く）することについて、「賛成」・「今年度と同じ」のいずれかを選択してください。

① 小学校・義務教育学校（前期課程）の児童（回答者数：10, 590名）



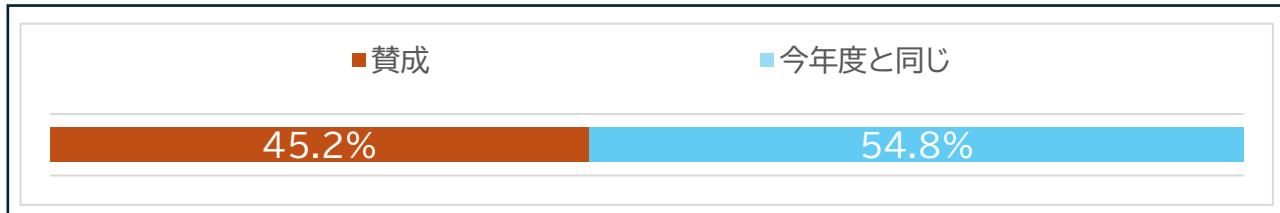
② 中学校・義務教育学校（後期課程）の生徒（回答者数：5, 158名）



③ 保護者（回答者数：7, 833名）

※再回答いただいた方、紙で回答いただいた方の意見も含む

※再回答いただいた方（賛成に変更：105名 今年度と同じに変更：53名）



（3）「賛成」・「今年度と同じ」と回答した理由（自由記述）

① 小学校・義務教育学校（前期課程）の児童（回答者数：4, 677名）

（1）延長することに「賛成」と回答した主な理由（回答者数：3, 677名）

・暑さや熱中症への懸念

「登下校が暑いから」「熱中症になりそうだから」など、登下校の危険性、健康面を心配する。

・個別の学習時間の確保と質の向上

宿題や自由研究、工作や読書感想文など、自由課題に時間をかけて取り組みたい。自分の苦手教科の復習や予習をする時間が増え、十分な時間を割きたい。

・レジャー・思い出づくり・特別な体験の時間の創出

学校生活では得られない思い出づくり、友だちや家族との遊びの充実、自分の趣味や新しいことへの挑戦、習い事やスポーツへの積極的な取組など、夏季休業期間を利用して、レジャーや思い出づくり、特別な体験をしたい。

・休息と心身のリフレッシュ

「ゆっくり休みたい」「家でのんびり過ごしたい」など、休息と疲労回復、心身のリフレッシュを望む。

（2）「今年度と同じ」と回答した主な理由（回答者数：1, 000名）

・学習・学力への影響（授業の進度、学習内容など）

「授業が遅れてしまうのではないか」「2学期以降の学習内容が増えるのではないか」「学習したことを忘れそう」など、授業や学習に関する不安がある。

・学校生活の楽しさと友だちとの交流機会の減少

「友だちや先生との交流機会が減る」「友だちと遊びたい」「学校に行くのが楽しい」など、学校生活への愛着、友だちとの交流を望む。

・宿題の増加への懸念

「宿題が多くなるから嫌」「宿題が終わるのか不安」など、夏季休業期間の宿題の量に関する不安がある。

・生活リズムの乱れと他の休業期間への影響

「生活リズムが崩れ学校へ行くのがしんどくなる」「ダラダラと過ごしてしまう」など、自己管理に関する影響、冬季休業期間や春期休業期間への影響を心配する。

・保護者負担と家庭状況への不安

弁当づくりや昼食準備など、保護者負担が増え、仕事への影響等を心配する。また、家にいると暇になり姉兄妹弟と喧嘩するのではないかと心配する。

② 中学校・義務教育学校（後期課程）の生徒（回答者数：2, 141名）

（1）延長することに「賛成」と回答した主な理由（回答者数：1,694名）

・熱中症対策と安全性の確保

「登下校について暑すぎて学校に行くのがしんどい」「体調を崩すリスクがある」など、熱中症対策と健康・安全性の確保を望む。

・授業中の熱中症対策

授業中の熱中症リスクの軽減、授業に集中できない、体調不良や集中力の低下を防ぐ。

・自宅学習の効率向上と個別の学習時間の確保

自宅学習の時間を確保し、学校の課題やテスト勉強に余裕をもって取り組みたい。自分の好きな教科や苦手な教科に集中できる。ポスターなどの自由課題や探究学習に取り組む時間がほしい。個々の課題と向き合うための学習時間の確保につながるなど、効率的な学習時間、予習・復習時間を確保したい。

・部活動（「かこ☆くら」）の充実、休養と自己実現のための時間確保

部活動（「かこ☆くら」）の時間、家族や友だちとの思い出を作る時間が増える。自由な時間が増えることで、自主性や自己管理能力を養う機会になるなど、社会性・自主性の育成につながる。

（2）「今年度と同じ」と回答した主な理由（回答者数：447名）

・授業進度や授業時間の不安

「授業時間が減ると教材がすべて終わるのか」「授業のペースが早くなり、内容を理解できなくなりついていけなくなるのではないか」など、授業や学習内容の理解への不安がある。

・課題や宿題の増加への懸念

今でも宿題の量がかなりあり、これ以上増えると困る、宿題の量が変わらないのであれば延長に賛成である。

・生活習慣と生活リズムの悪化

家でダラダラするよりも学校で勉強を進めたほうが良い。学校へ行った方が生活のリズムが整う。2学期が始まても元のリズムに戻すのが大変である。

・部活動（「かこ☆くら」）への影響

部活動（「かこ☆くら」）があって、毎日学校に行っているのと変わらないから、延長しても変わらない。夏季休業期間の部活動（「かこ☆くら」）がしんどいので、夏季休業期間が延長されると精神的に辛い。

・学校や友だちとの関係

友だちと会えない時間が寂しいので、友だちに会いたい。学校が楽しいから、学校へ行きたい。

- ・家事や経済的負担

働いている親の負担も増える。親が昼ご飯を用意することが大変だと思う。

- ・するいという感情

自分たちは短かったのに、他の学年だけするい。今まで暑い中頑張って登校してきたのに、今から変えるのはおかしい。

- ・現状に満足

1ヶ月くらいがちょうどいい。今年度でも十分勉強ができた。

③ 保護者（回答者数：4, 267名）※再回答いただいた方の記述数も含む

（1）延長することに「賛成」と回答した主な理由（回答者数：1, 787名）

- ・登下校中の熱中症のリスクや子どもの身体的負担の軽減

「命の危険を感じる暑さだから」「登下校時の熱中症が心配」など、近年の異常な猛暑による登下校中の熱中症リスクや子どもへの身体的負担を軽減する。

- ・授業時間数や学習内容に影響がないことへの理解

「授業時間数、春季休業期間と冬季休業期間に影響がないことが理解できた」など、授業時間数の確保や学習内容に影響が出ないこと、春季休業期間と冬季休業期間が短縮されないことを条件に、数日程度の延長を賛成する。

- ・夏季休業期間の延長に関する提案

9月上旬も暑いため、夏季休業期間の9月までの延長を望む、夏季休業期間でもオンラインでの対応などを提案する。

- ・賛成に変更する理由

延長期間が思っていたより短かったこともあり賛成に変更する。

（2）「今年と同じ」と回答した主な理由（回答者数：2, 480名）

- ・保護者負担の増加と子どもの様子の変化

共働き家庭の負担増加（弁当づくりや子どもの留守番）、子どもの生活の乱れや休み明けの行き渋りが心配など、保護者負担や子どもの様子の変化が心配である。

- ・学習面への影響

授業日数が減ることで、学力低下、学習の遅れ、進度の速まり、授業内容の詰め込みなど、子どもの学力と学習内容の理解に関する心配がある。

- ・オンライン授業の活用

延長による授業時間の減少を補うため、または熱中症対策として、平常時でもリモート授業やオンライン学習を導入してはどうか。

- ・エアコン設置の現状と熱中症対策

登下校時の熱中症対策として延長することに一定の理解はするものの、教室にエアコンが設置されているため、期間を延長しても根本的な解決にはならないのではないか。子どもの学習環境は整っているのではないか。

- ・登下校時の対策の強化

登下校時の熱中症対策（日傘の許可/推奨、スクールバスの導入、送迎の許可、登下校の時間帯の調整など）を強化するべきではないか。

・部活動（「かこ☆くら」）への影響

部活動（「かこ☆くら」）で結局学校に行くことになるのではないか。

4 アンケート調査結果にかかる考察

今回のアンケート調査結果より、児童生徒、保護者とも近年の異常な猛暑、登下校中の熱中症リスクを心配する声が多いことがわかる。また、7月以降、兵庫県で熱中症警戒アラートが発表される日が多くなり（※1参考 環境省熱中症予防情報サイトより「熱中症警戒アラート発表履歴【兵庫県】」一覧）、お子様の登校の様子と下校後の様子を見ていて、暑い中、徒歩や自転車で通学させることに不安を感じているという声も多く寄せられた。また、数多くいただいたご意見とそのことへの考え方を以下にまとめる。

※1 参考 環境省熱中症予防情報サイトより「熱中症警戒アラート発表履歴【兵庫県】」一覧

年	期間	期間内発表回数	7月発表回数	7/21～7/31 発表回数
2025年(令和7年)	4/24～10/22	58回	23回	11回
2024年(令和6年)	4/25～10/23	58回	18回	11回
2023年(令和5年)	4/26～10/25	31回	12回	8回
2022年(令和4年)	4/27～10/27	25回	5回	3回
2021年(令和3年)	4/28～10/27	11回	2回	0回

（1）継続して取り組むこと

熱中症対策については、引き続き登下校時を含め強化する。例えば、必要な時期には塩分や糖分を含む飲料やタブレットを許可するなど、校内ルールの見直しを図り、熱中症防止策を考える。また、登下校中の荷物を少しでも軽くするため、家庭学習で使わない教科書や学用品等については、学校保管とし、学期始めや学期末には、荷物を少しづつ分散して持参・持ち帰りを行うようにするなど、児童生徒の負担軽減を図る。さらに、本市で推奨している「日傘」「冷やしタオル」「冷やしスカーフ」等の冷却・冷感グッズを活用するなど、個別に対策を取る必要がある。

学習面への影響（授業進度や授業時間の不安、課題や宿題の増加）については、下記「令和7年度 加古川市立学校平均余剰時数」（※2）を示しているが、市内全ての学校において、計画的に教育課程を編成しており、全ての教科等で余剰時数を確保して授業を実施し、文部科学省の示す標準授業時数を上回っている。今後、夏季休業期間を延長した場合、教科等の時間数、短縮時程の日数など、各校で再計算、再計画する必要があるが、標準授業時数は確保できる。しかしながら、学力低下、学習の遅れ、進度の速まり、授業内容の詰め込みなど、児童生徒の学力と学習内容の理解に関する心配の声もある。引き続き各校において、計画的な授業の実施、児童生徒の基礎的・基本的な知識及び技能（できる学力）の習得と思考力・判断力・表現力等（わかる学力）の育成を両輪に、学力向上、授業の工夫改善と授業の質の向上に向け、研究と研修を重ねる。あわせて、教育課程の実施状況を学校だより等で保護者にお知らせ

することも有効な方法であると考える。また、夏季休業期間の課題や宿題については、児童生徒一人一人が苦手とする内容、学びをより深めたい内容など、児童生徒が自ら選択しながら、課題解決に向けて主体的に取り組むことができるよう、課題や宿題の内容を精選する。

※2 参考 <令和7年度 加古川市立学校平均余剰時数 ※学校行事は含まない>

学年	小・義務教育学校前期課程						中・義務教育学校後期課程		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年 (7年)	2年 (8年)	3年 (9年)
標準授業時数	850	910	980	1015	1015	1015	1015	1015	1015
平均余剰時数	61	49	46	46	46	43	34	35	24

オンライン授業については、対面授業を基本とするが、1人1台端末を活用し、動画や音声（例えば、運動会や体育大会の演技、模範演奏など）を放課後や週末に視聴して練習を重ね、学校での練習時間を短縮するなど、教科等の授業時数の確保に向けて工夫改善する。また、夏季休業期間、1人1台端末で児童生徒が学習成果をまとめ、オンラインで提出するなど、家庭学習を充実させる環境づくりに取り組む。

生活の乱れや生活リズムの悪化、休み明けの登校については、夏季休業期間中にICTを活用して児童生徒の様子を確認するなど、各校において2学期に向けた準備を行う。また、2学期当初は、授業時間を調整したり、部活動（「かこ☆くら」）の練習時間を減らしたりして、スロースタートの期間を導入するなど、工夫改善を行う。さらに、暑い時期の部活動（「かこ☆くら」）については、日数・時間帯を工夫し、身体的・精神的な負担にならないよう配慮する。

(2) 検討すべきこと・実施困難なこと

給食の実施期間については、始業式や終業式、短縮期間等を考慮して、年間を通じて給食開始日と終了日を検討する。児童クラブの受け入れについては、夏季休業期間のみの受け入れについて広く周知しながら、児童の受け入れ体制等を整える。

春期休業期間や冬季休業期間については、短縮や延長を実施しない。

登下校の時刻や時間帯については、登校時刻を早めることは、家庭の準備や登校時の見守り等、保護者負担も想定される。また、学校の受け入れ態勢も整わないと実施は困難である。スクールバスで巡回することや保護者の送迎については、徒歩や自転車通学の児童生徒との安全上の問題、授業開始時刻を鑑み、実施は困難である。

(3) 児童生徒、保護者等にご理解とご協力をいただくこと

夏季休業期間の家庭や地域での児童生徒の過ごし方や昼食については、ご理解とご協力をいただくことが必要である。また、家庭学習の進め方、生活リズム、友だちとの遊び方、SNSの利用方法、インターネットやゲーム等でのネットトラブル防止等についても、同様に、ご理解とご協力を得ながら、学校・家庭・地域との連携、見守り等を強化する必要がある。さらに、夏季休業期間にしかできない学びや体験、読書に

親しむ、友だちと遊ぶ、普段できないお手伝い、日々の何気ない会話など、家庭での生活を充実させる工夫も必要である。

5 本市における夏季休業期間の変更に関する考え方

本市では、令和2年から教室等の空調整備を進めるとともに、感染症などで臨時休業があった場合の授業時数を確保するため、試行期間を含め、夏季休業期間の短縮を行ってきた。

コロナ禍が収束した近年では、記録的な猛暑が続き、連日熱中症警戒アラートが発表される中、登下校時などにおける熱中症事故の発生が新たな懸念となっている。

このたび、本アンケート調査を実施し、児童生徒及び保護者から、近年の異常な猛暑や熱中症への不安、身体的な負担を心配する意見が寄せられ、夏季休業期間の変更・延長に理解を示す声も多くあった。特に、直接熱中症等のリスクの対象となる児童生徒の75%以上が、延長を希望している結果を重視すべきと考える。また、児童生徒から、個別の学びを充実させること、心身のリフレッシュや思い出づくりなど、自分の時間を工夫改善することへ、前向きな意見も寄せられた。

学校現場からも登下校時や学習活動中の熱中症を危惧する声は大変強く、リスクの軽減に向け、夏季休業期間の延長を求める声もあった。各校においても、引き続き、熱中症を含む安全対策の強化、学習面の工夫改善、児童生徒の生活面への配慮など、保護者の理解と支援を受けながら、学校教育の質の向上をめざした取組を進めていく。また、夏季休業前や休業期間中も、生活指導等を行うとともに、児童生徒が主体的に取り組むことができる課題や宿題を提示したり、ICT等を活用して児童生徒の様子を確認したりするなど、児童生徒の家庭生活と学習活動の充実に向け工夫改善を図る。

以上のような経緯や考えから、令和8年度以降は、児童生徒の健康を守ることを最優先に考え、令和元年以前と同様の夏季休業期間に戻すこととする。

しかしながら、今年度と同様の期間を求める保護者の中には、昼食の負担や小学生段階の留守番等を心配する声もあった。夏季休業期間の昼食の負担に関しては、児童生徒の安全・安心を優先することに保護者の理解と協力を得ながら、これからも社会全体で考える必要がある。また、児童の居場所づくりに関しては、夏季休業期間のみの児童クラブの受け入れを広く周知するなど、体制を整えていく。

また、令和6年9月文部科学省から、標準授業時数を大幅に上回る教育課程について、見直しと点検を行うよう通知があり、夏季休業期間を戻した場合でも、標準授業時数を上回る授業時数を確保できるため、学習面に支障はないものと考える。

引き続き、保護者の理解と協力を得ながら、こどもたちの豊かな学びの実現と健やかな心身の育成を図る取組を推進していく。